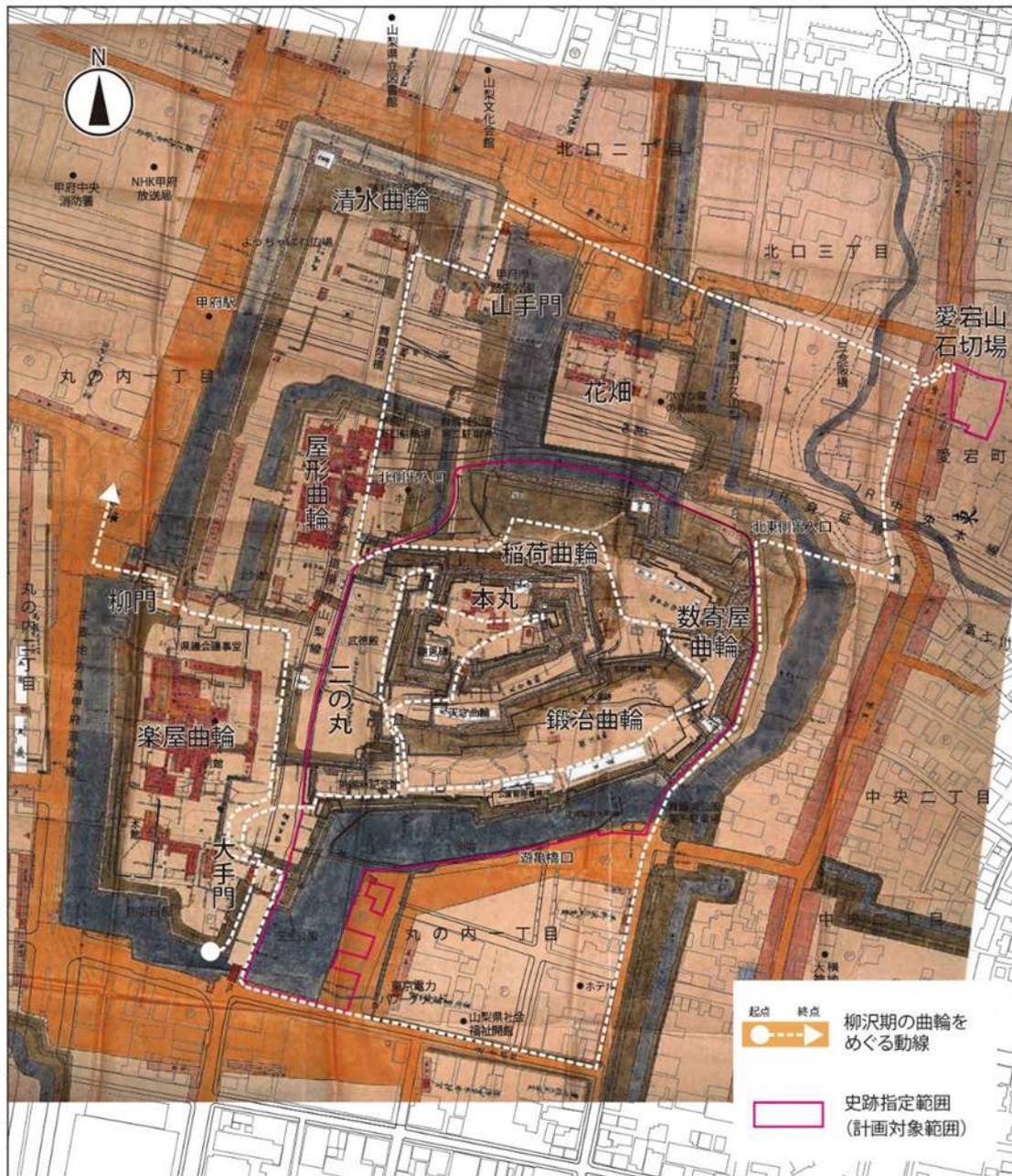


第3節 活用整備に関する計画

1. 動線

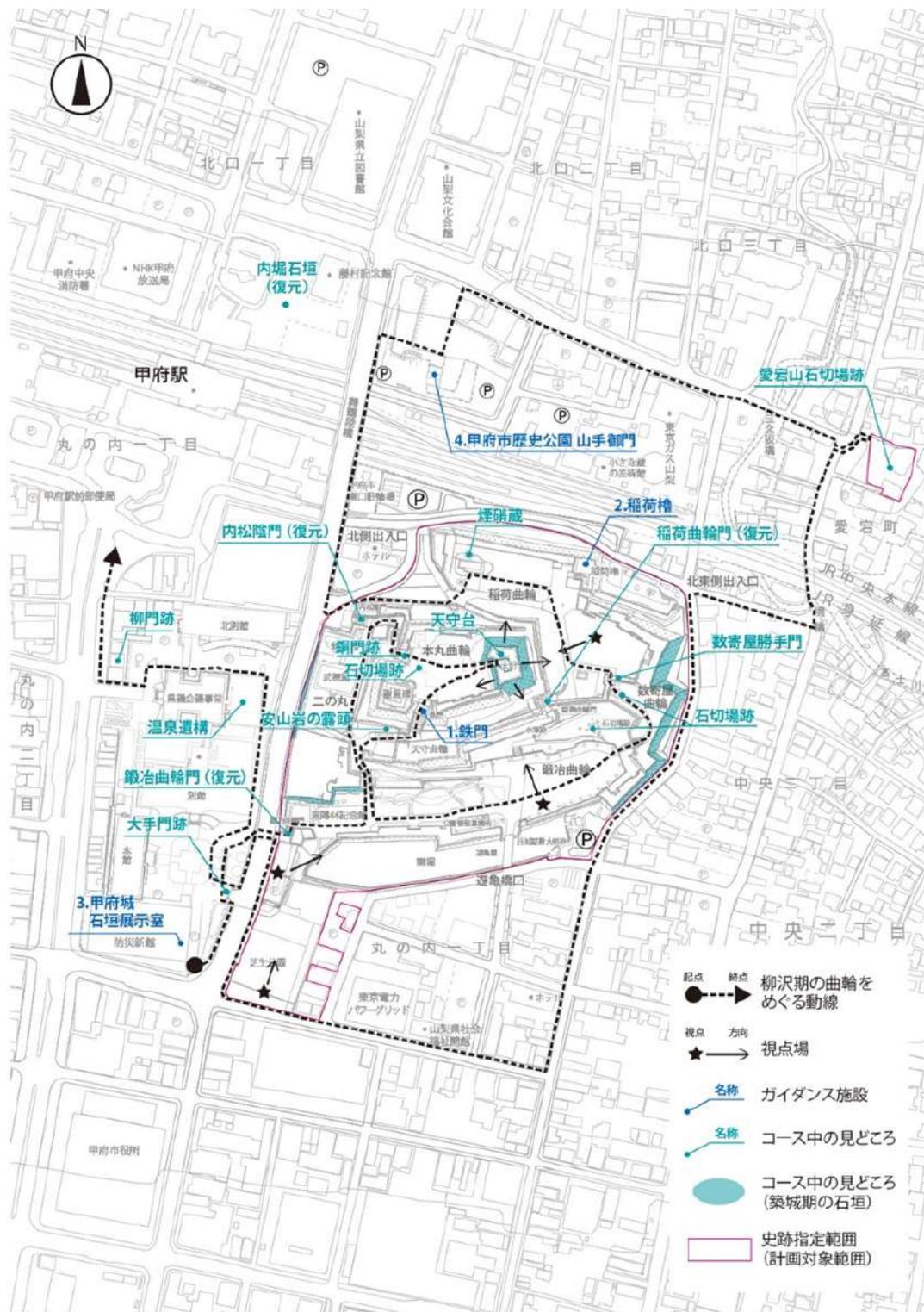
(1) 甲府城跡の動線の設定

史跡周辺は市街地化が進み、現地では実際の城域を体感することが出来ない状況がある。また、現在、都市公園の範囲である城跡のエリアと愛宕山石切場跡との間には距離があり、一体のものとして捉えられていない状況がある。このため、見学コースの設定に先立ち、整備にあたり指標とする、江戸時代中期の柳沢吉保・吉里父子が城主であった時期（城の最終的な姿の元となる再整備が行われた時期）の絵図を参考に城郭本来の動線設定を行った。これは、まず城南側の大手門から城内に入り、鍛冶曲輪門から二の丸を経て内松陰門から本丸、天守台に至り、その後、鍛冶曲輪から数寄屋曲輪、稻荷曲輪



甲府城跡 柳沢期の曲輪と愛宕山石切場跡をめぐる動線

輪を通過して山手門から城外に出て、愛宕山石切場跡を通った後、城の外側を東から南に抜け、再度大手門から城内に入り、柳門から城外に抜けるルートである。また、参考動線として、甲府城跡の本質的価値である築城期の石垣について理解を深めるための「築城期の遺構をめぐる動線」を設定した。



柳沢期の曲輪をめぐる動線設定

これら城郭本来の動線をもとに、史跡内の見学コースと、史跡外を含めた城郭全体の見学コースの一例を提示する。現状では、特に史跡外では市街地化により往時のルートをたどれない箇所が多いが、ここで示した城郭本来の動線を理解してもらえるようなルート設定と解説を念頭に置いた整備を目指す。なお、今後はこれらの見学コースを踏まえた上で、動線計画に関する各種調査を行い、まちなかの各種施設や人の流れ、来訪者のニーズ等を把握してより具体的な動線計画を作成し、コース情報をマップやパンフレット、アプリなどを通して発信することで、まちなかを含めた周遊を促すこととする。

(2) 史跡内の見学コース

史跡甲府城（舞鶴城公園）の出入口は5か所ある。南の遊亀橋から鍛冶曲輪に通じる遊亀橋口、南西の鍛冶曲輪門口、西の内松陰門口、北西から稲荷曲輪に通じる北側出入口、北東から稲荷曲輪に通じる北東側出入口の5つである。現状では、特定の見学コース等は設定されていないため、来訪者は史跡内を自由に見学する形となっている。

今後は、来訪者が史跡の見どころを効果的に巡り、城跡への理解を深め楽しみながら周遊できるよう、動線計画を作成する。

本計画では一例として、以下3つの見学コースを提示する。いずれも現在周遊できるルートで設定している。

- 1 甲府城お手軽体感コース …城郭の範囲を短時間で効率的に巡るルート
- 2 甲府城じっくり体感コース …城郭と愛宕山石切場跡の見どころをくまなく巡るルート
- 3 バリアフリーで甲府城体験コース …高齢者や車いす利用者などバリアフリーに配慮したルート

【史跡内の見どころ】

○築城期の野面積み石垣

…甲府城跡は、築城期に地形造成がなされて石垣が積まれ、あらかたの城郭の形が完成したものと考えられている。現在でも城内の至る所で迫力ある野面積み石垣を目にすることができる。

- ・築城期の石垣が見られる箇所：天守台、二の丸西側と南側、数寄屋曲輪・稲荷曲輪・数寄屋曲輪東側（高石垣）、稲荷曲輪北側）

○復元建造物等

…稲荷櫓、鉄門、内松陰門、鍛冶曲輪門、稲荷曲輪門が復元整備され、往時の姿を現地で示すとともに、史跡景観を形作っている。

○石切場跡

…甲府城では、当初は安山岩の山である一条小山を切り崩して地形造成をし、曲輪が形成され、同時に石材を確保しながら石垣が積まれた。その後、近接する、愛宕山石切場からも石材が運び込まれて使用されたものと考えられている。このように、城内と城郭に近接する場所に石切場があったことが甲府城の特徴のひとつである。

- ・石切場跡があった箇所：本丸、鍛冶曲輪、数寄屋曲輪、愛宕山石切場跡、
※城内には中の門跡付近など安山岩の露頭が見られる場所もある。

○遺構表示

…銅門跡、煙硝蔵跡などが遺構表示され、史跡の本質的価値が顕在化されている。

○視点場

…城の頂部から見る眺望の視点と、城の下方から見上げる視点がある。また、史跡外の離れた場所から望む視点もある。

- ・眺望の視点：天守台⇒四方
- ・見上げる視点：稲荷曲輪⇒天守台方向、鍛冶曲輪⇒天守台方向、堀地区（埋め立てられた堀）⇒天守台方向



天守台の野面積み石垣



中の門跡付近の安山岩の露頭



稲荷曲輪東側の野面積み石垣（高石垣）



銅門跡



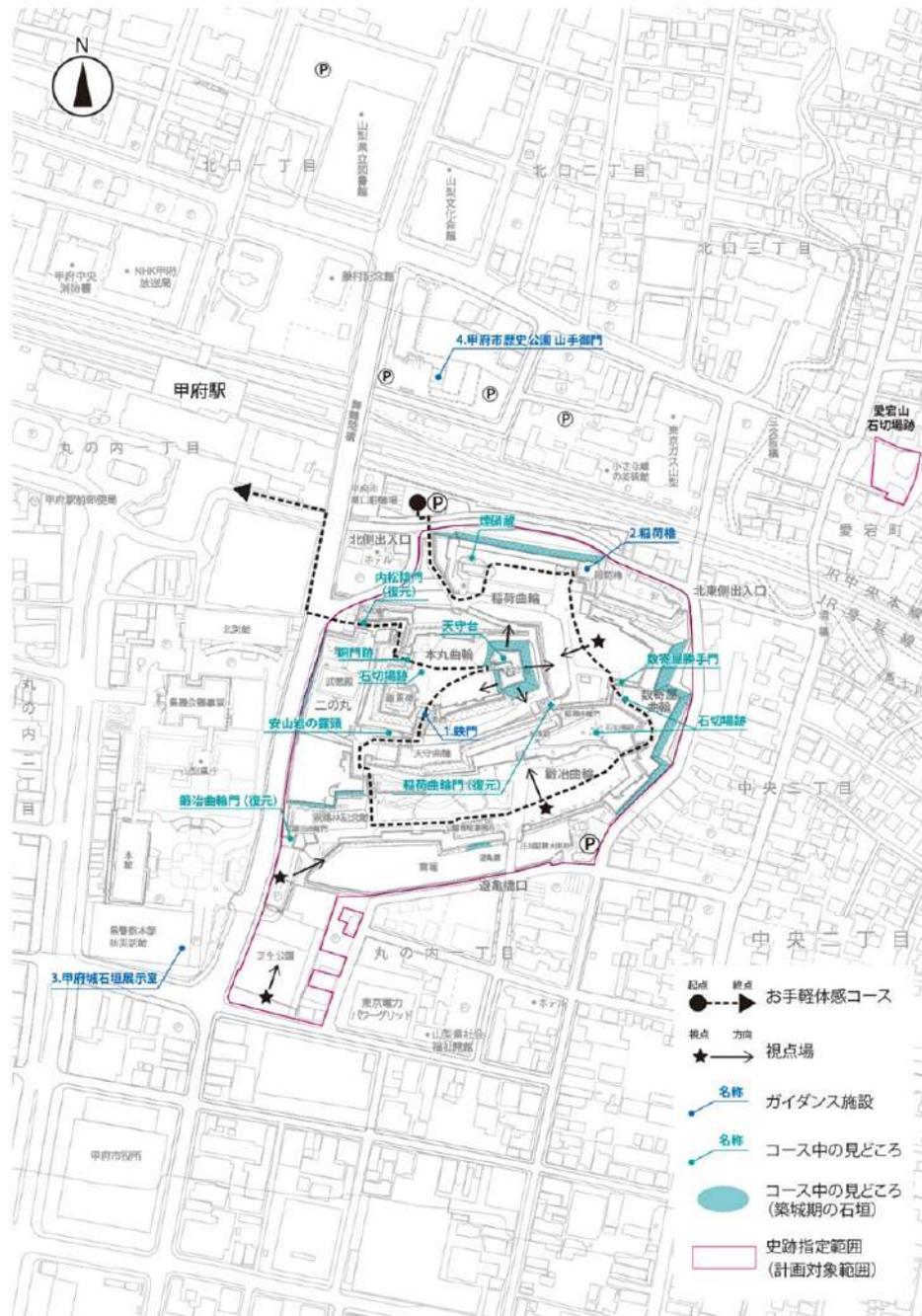
鍛冶曲輪石切場跡



堀地区からの史跡景観

1) 甲府城跡 お手軽体感コース

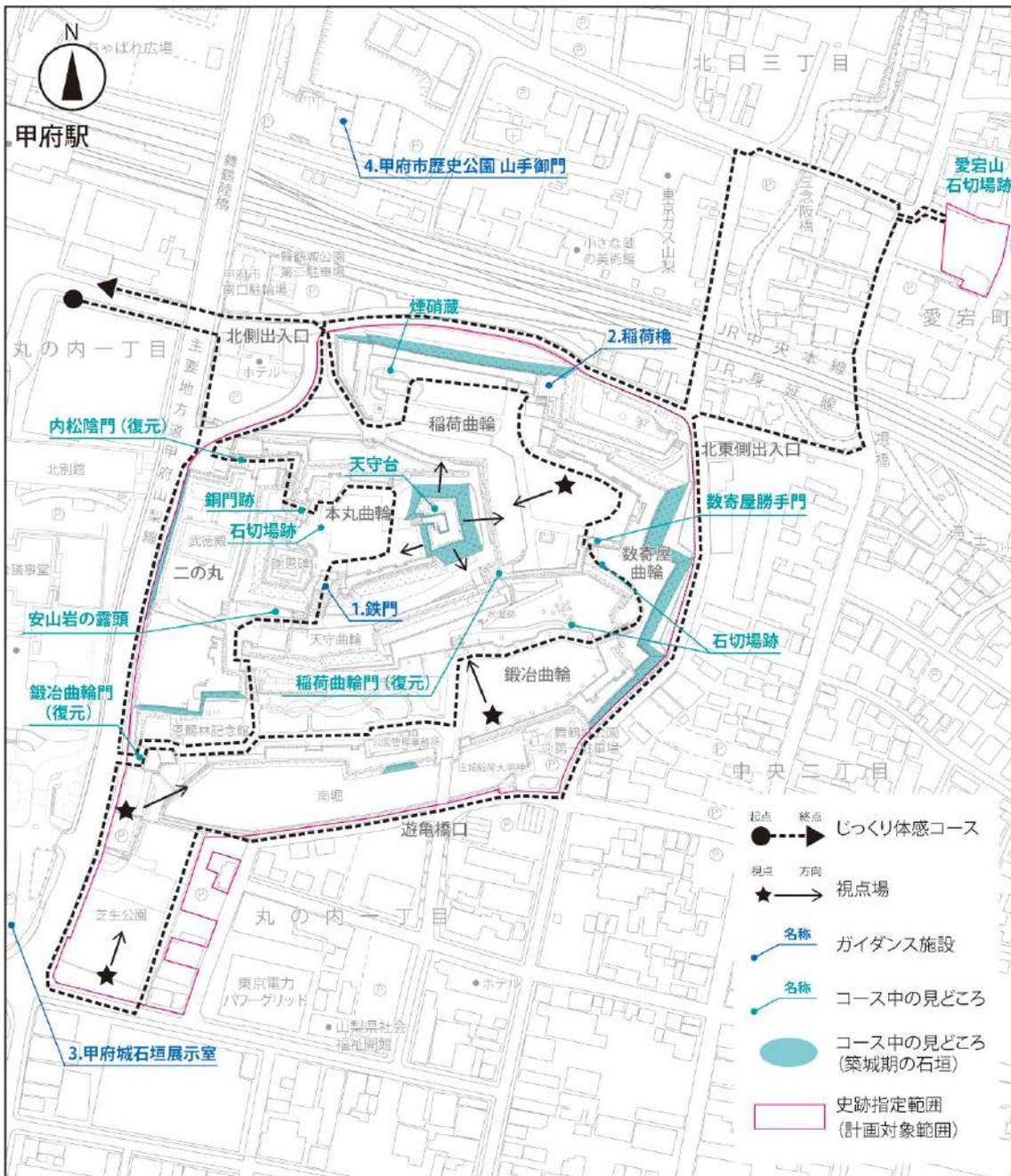
史跡の範囲で気軽に甲府城を体感できるコース。所要時間は30～60分程度。甲府駅からの来訪を前提とし、北側出入口からアクセスし天守台を目指す。ガイダンス機能をもつ稲荷櫓で甲府城の基礎知識を得た後、現地では主要な石垣や復元建造物、本丸の石切場跡を巡り、天守台からは四方を眺望する。短時間で甲府城の全体像を把握できるコースである。鉄道を利用して甲府を訪れた方々が少しの空き時間を利用して、駅から近い甲府城跡を見学する場合や、周辺文化財等と組み合わせて見学する場合などを想定している。



①甲府城跡 お手軽体感コース

2) 甲府城跡 じっくり体感コース

史跡の範囲をくまなく巡るコース。所要時間は3時間程度。史跡を内からだけでなく、外からも見ることで曲輪の配置を体感でき、史跡内の主要な石垣を網羅的に見学することにより築城期と江戸時代中期など石積みの違いについても知ることができる。また、城内の石切場跡、城外の愛宕山石切場跡を併せて見学することで、築城や改変、拡大等、城の来歴の過程を理解することができる。このコースは腰を据えて甲府城跡を見学する場合を想定している。現地をただ見ただけでは理解しにくい内容もあるため、これらは説明板やガイダンス機能の中で説明を補い、現地でのボランティアガイドの説明と合わせて来訪者が必要な情報を効率的に得られるような整備を行う。

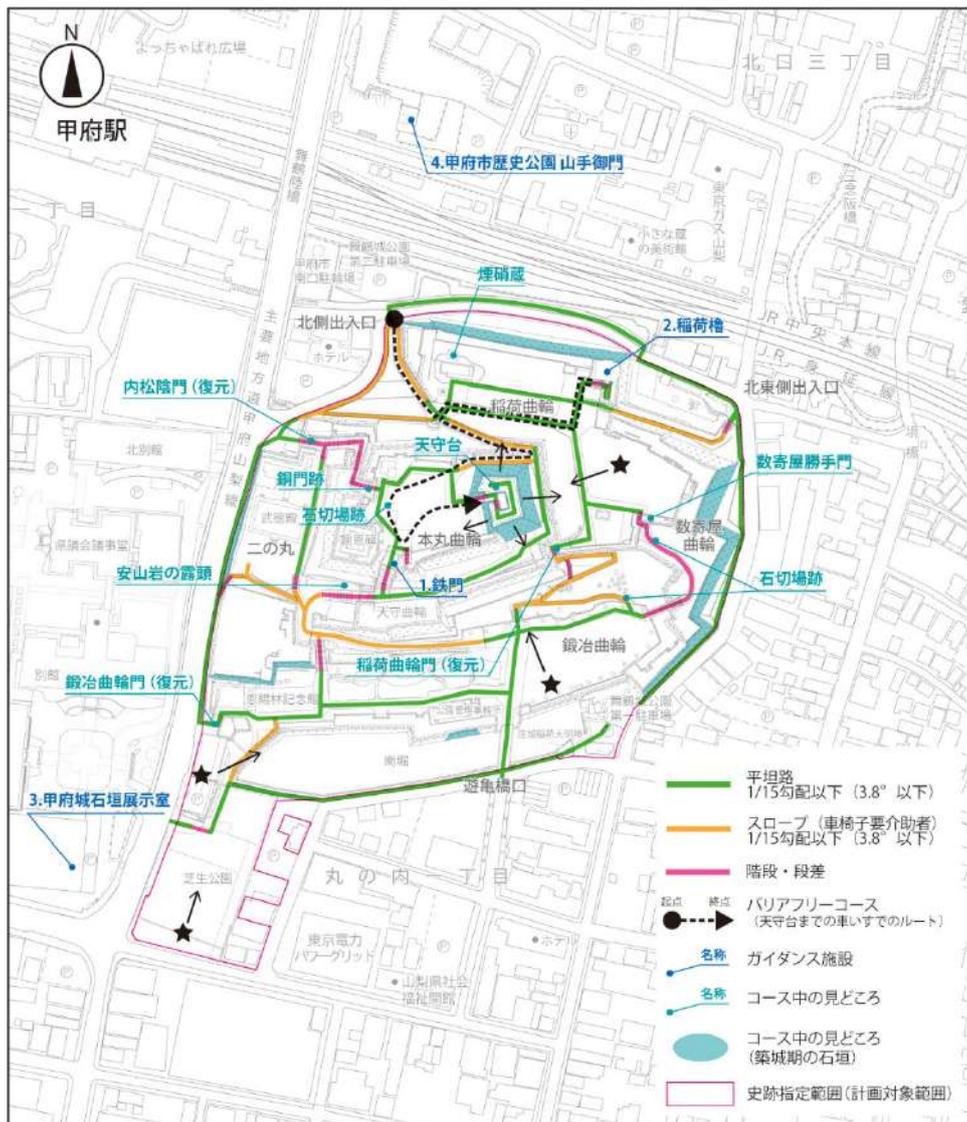


2 甲府城跡 じっくり体感コース

3) バリアフリーで甲府城体験コース

【コンセプト】 バリアフリーに配慮したルートである。車椅子が自走可能な1/15勾配を基準に、自走可能なルート（緑）と、介助者が必要なルート（黄色）、車椅子等での利用ができない階段、砂利道などのルート（赤色）を図示した。城内は近代の改変によって結果的にバリアフリーな環境が生み出されている側面もあるため、これを有効に活用したルート設定を行った。

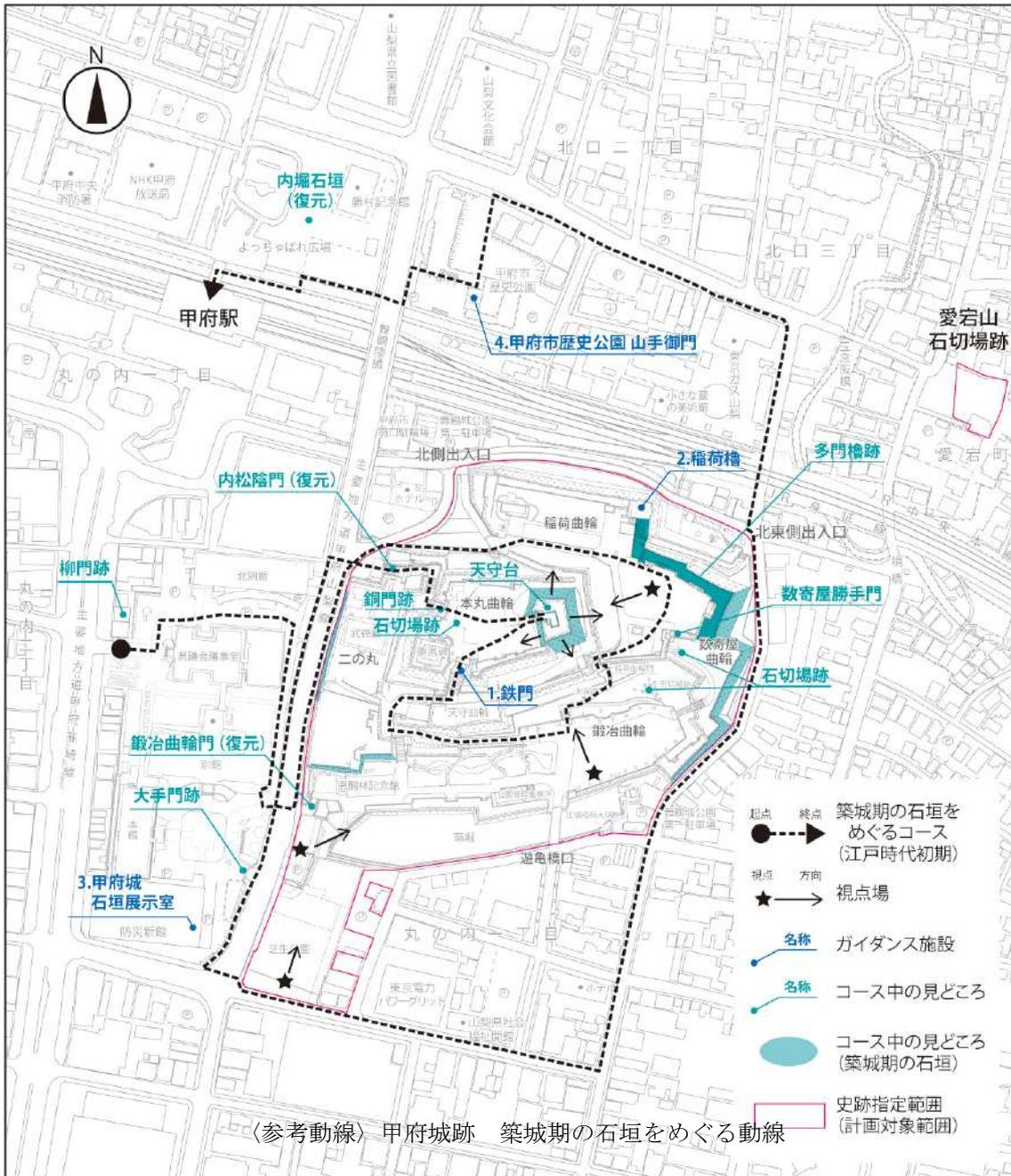
主要なルートとしては、北側出入口から入城して天守台下まで至るものを設定した。ただし、傾斜が急な部分もあるため、介助者が必要となる。このルートでは、稲荷櫓へのアクセスも可能であるが、稲荷櫓の石段には昇降機が設置されているため、櫓内（1階部）に上ることもできる。ここでは、展示見学により、甲府城の基礎情報を得ることが可能である。稲荷曲輪から本丸へはスロープで上がることができる。天守台には階段があるため、上ることはできないが、周囲から天守台の石垣（築城期）を見学することが可能である。本丸では、鉄門を間近に眺めることができ、銅門の遺構表示を見学できる。史跡内をくまなく周遊することは難しいが、本丸北側のスロープを使って甲府城跡の中核部で天守台を見ながら、お城らしい景観を体感することができる。



〈参考動線〉 甲府城跡 築城期の石垣をめぐる動線

【コンセプト】

甲府城築城当初のお城の空間構成を体感し、天守台周辺、稲荷曲輪・数寄屋曲輪東側、二の丸西側などの迫力ある築城期の石垣を満喫するコース。お城西側の柳門から城内に入り、江戸時代初期に稲荷櫓と併設されていた多門櫓、天守台や築城当初の石切場跡である本丸をめぐる。



1. 案内・解説施設

現在、甲府城跡の遺構が残り、城らしい景観が残されているのは、ほぼ史跡の範囲に限られており、城郭の範囲がより広域であったことを現地で理解することは難しい。また、史跡指定地（舞鶴城公園）内では、来訪者の見学の手助けとなるようなルートが示されていない上、城らしさを体感できる史跡景観に関する解説がない。このため、案内・解説施設については、以下の目的に沿った形で、動線計画の検討とともに、ハード、ソフトの両面から整備を行う。

- 城らしい景観が残されているのは史跡指定地（舞鶴城公園）内であるが、甲府城の本来の城域はより広域に及ぶことを来訪者が理解できる案内を行う。
- 現状で甲府城の遺構を見学できる史跡指定地（舞鶴城公園）内で、城の歴史や構造、個々の遺構を理解しながら、来訪者が目的や時間に合わせて効率的に見学できる手助けをする。

なお、海外からの来訪者にも対応できるように、日本語のみの表記となっているものについては、多言語表記を行う。

案内・解説施設については、掲載情報、設置場所、デザイン、言語表記など検討を要する事項が多数あることから、今後、動線計画と連動させた効果的なサイン計画を新たに作成することとする。これに基づき、今後整備を実施する水堀南側の都市公園整備予定地や愛宕山石切場跡については、案内板や説明板等の設置を行う。

以下、案内・解説の種類ごとに課題と今後の計画を示す。

（1）案内板

現在、史跡（公園）の出入口5ヶ所に設置されている。内容は、公園の全体図と現在位置であり、都市公園という側面での案内にとどまっている。

今後は、史跡の見どころを巡る効果的な見学ルートや所要時間について、来訪者が容易に把握できるよう、見学コースと所要時間を記載した新たな案内板に更新する。

（2）説明板

現在、城内に29箇所設置されており、各スポットに簡単な解説がなされている。見学ルート上の見どころを現地で解説することが効果的であるため、動線計画を設定するとともに、不足する説明板についての精査を行う。なお、史跡内に説明板を多数設置するのは、史跡景観上望ましくないことから、設置場所を限定するなどの精査を行う。設置場所が限定されることによって現地の説明が不十分になる点については、ルートや解

説を掲載したパンフレットやマップアプリなどを活用し説明を補足する。

※見学ルートの設定に伴い、新規9ヶ所、改修1ヶ所が必要となる。

(3) 誘導標識

現在、城内には12箇所設置されている。誘導標識は、城内を効率的に見学するために重要なサインであるが、現状では、施設等の方向・場所を示すにとどまっている。今後は、動線計画を設定する中で、誘導標識の設置箇所、記載内容についての精査を行う。また、今後新たに追記する情報として、来訪者が周遊しやすいように各スポットまでの所要時間の明示を行う必要がある。

なお、バリアフリーにも配慮し、車椅子などを使って移動する場合のルートについても明示する。この点については現地の標識に推奨ルートを示す、あるいはパンフレットやアプリなどで情報を発信していく。

※見学ルートの設定に伴い、新規13ヶ所、改修2ヶ所が必要となる。

(4) 眺望説明板

眺望説明板は天守台の四方に設置されている。説明板には眺望写真と地点名が示されており、天守台からの遠景を楽しむための参考になっている。しかしながら、傷みが著しい上、史跡景観上の情報が不足していることから、甲府城の歴史を伝える解説の追加を行う。

また、史跡内ではないものの、山手御門展望台からは富士山とともに天守台周辺を一望することができる。ほかにも、水堀南側では、史跡の特徴（階層的な曲輪・石垣・水堀等）を最も視覚的に体感することができ、史跡北側の線路沿いからは甲府城の中で最も長い、稲荷曲輪北面の石垣を見ることができる。少し離れたところでは、甲府城築城にあたり鬼門の位置に遷して建てられた愛宕神社（愛宕山宝蔵院）からは、天守台を望むことができる。このような史跡周辺のビューポイントや周遊ポイントについても、現地に説明板を設ける、あるいはパンフレットやアプリにその点を記載するなど、史跡内の整備と併せた形で情報発信の方法を検討していく必要がある。

(5) その他

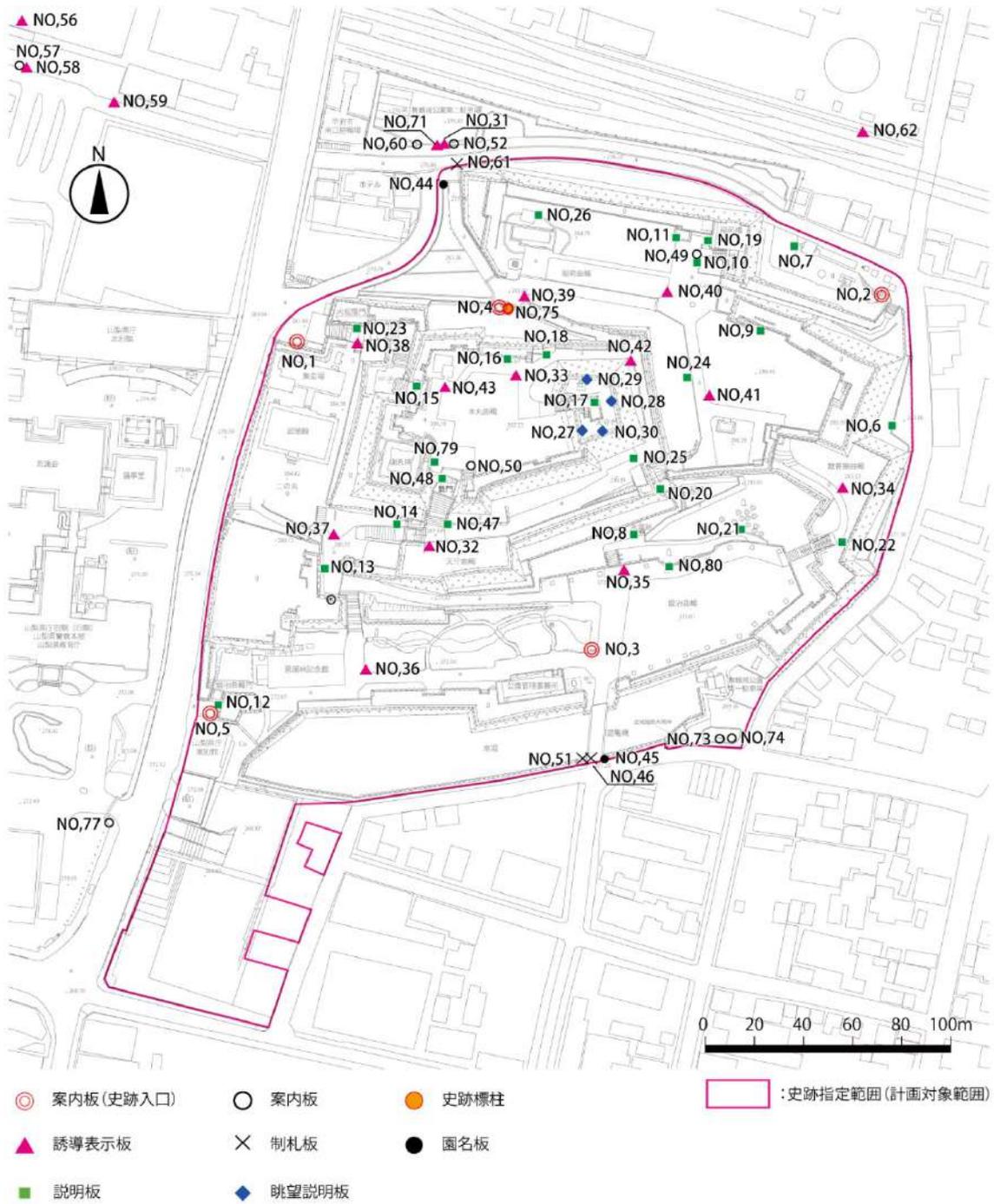
史跡内の石垣については、現在明らかに危険性が指摘される箇所はないが、地震や豪雨などの際に崩落などの危険が生じる可能性がある箇所については、来訪者に立ち入り禁止区域などを伝える必要がある。また、来訪者が安全に史跡内を周遊できるように、注意事項などを示す必要がある。注意喚起のための看板の設置についても併せて検討し、整備を行う。

(6) 史跡指定地外について

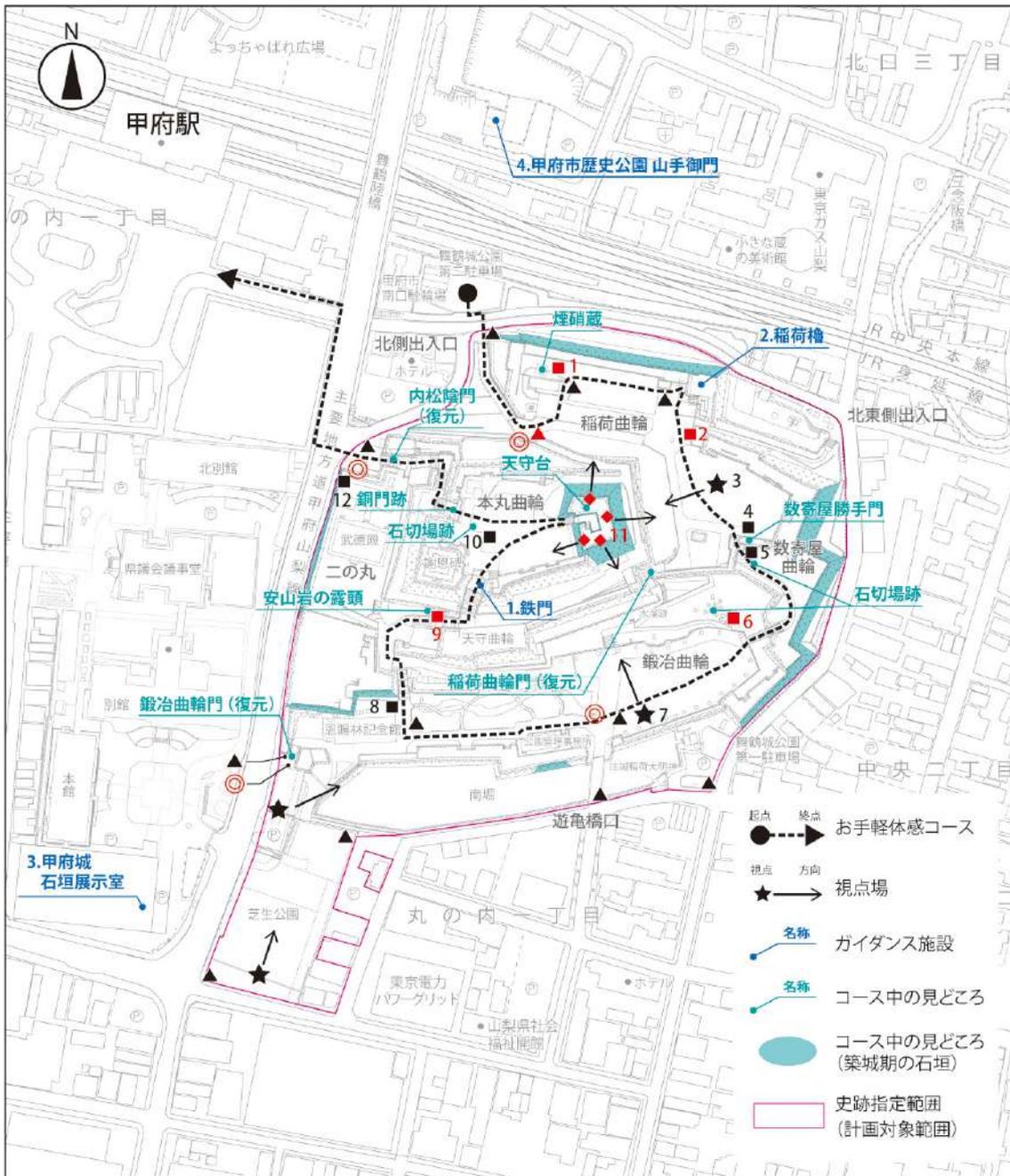
甲府城の本来の城域について理解を促すためには、史跡指定地外についての案内・解説施設についても併せて検討していく必要がある。

例えば、甲府駅は甲府城の清水曲輪に位置している。駅は人々が多く利用する場所にも関わらず、駅内にはこの情報を伝える案内などがない上、駅から出て、まず目にする景観はビル街であり、駅から200m（甲府駅南口から甲府城北側の入口まで）という至近距離に史跡甲府城跡（舞鶴公園）があることにも気付けない状況となっている。甲府の玄関口である甲府駅を訪れた人々に、まずは城の存在を知ってもらった上で、甲府城跡に関心を持ってもらい、城跡へと足を向けてもらうためには、甲府駅構内やその周辺への案内板設置等、情報発信が必要であることから、これらの方法について関係機関と協議していく。

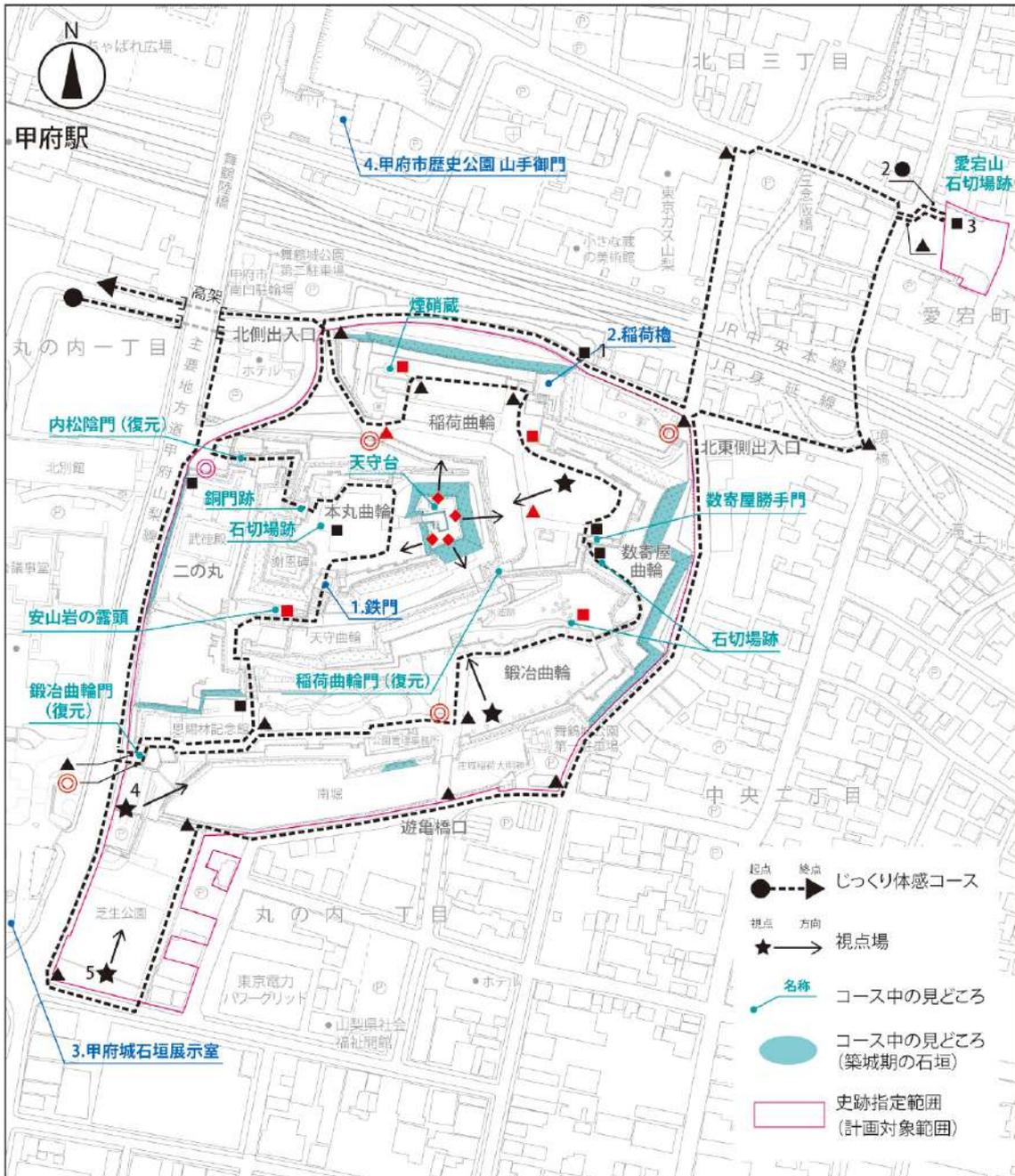
次ページからは、史跡周辺のサイン分布図を示すとともに、前項で示した動線計画に基づいた動線路サイン新設・改修位置図を示す。



史跡周辺のサイン分布図（既設）



①甲府城お手軽体感コース サイン整備計画図

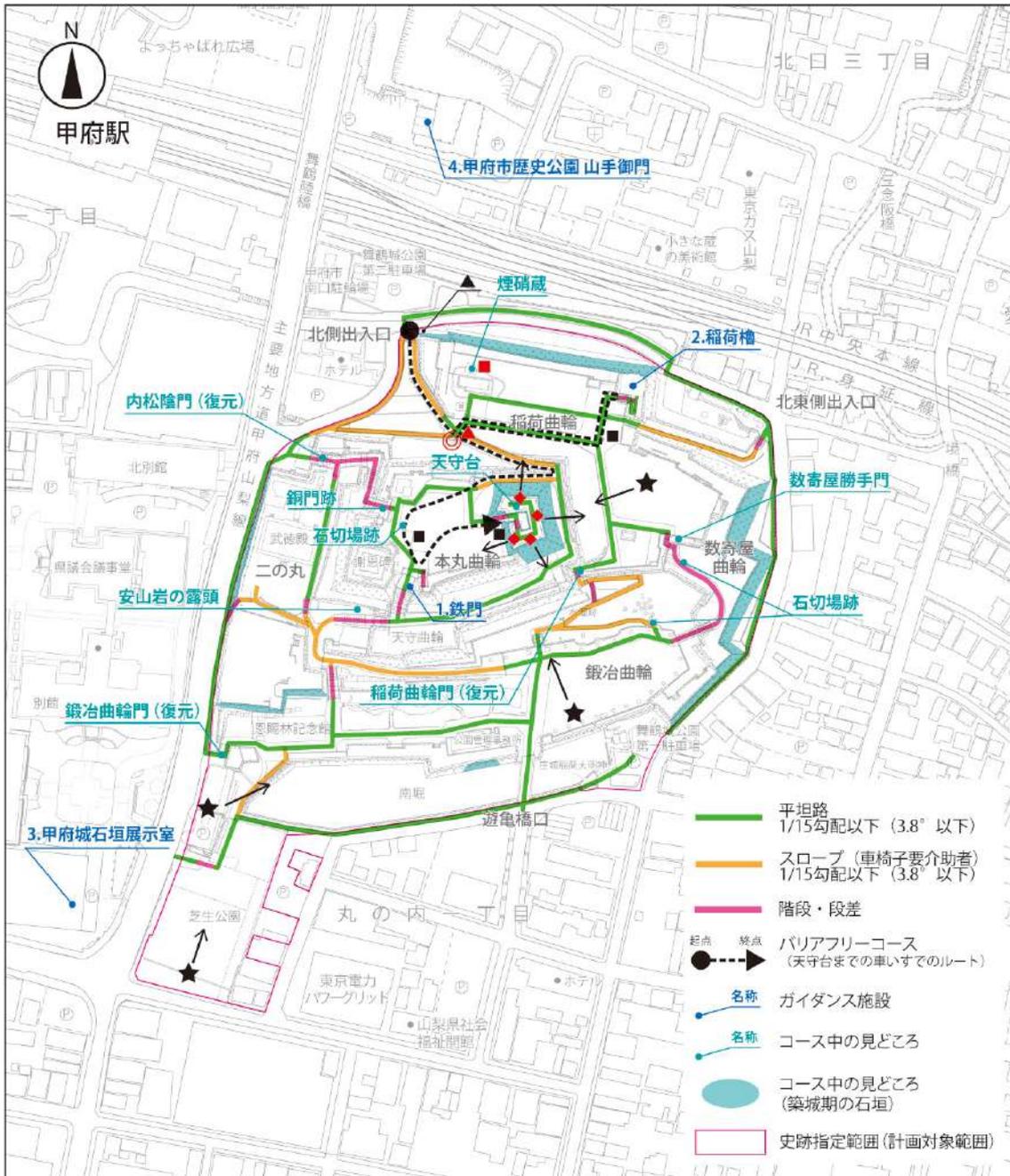


新規

- ◎ 案内板(史跡入口) ○ 案内板 ● 史跡標柱
- ▲ 誘導表示板 × 制札板 ● 園名板 ■ 説明板
- ◆ 眺望説明板 ★ 視点場

改修

- ◎ 案内板(史跡入口) ○ 案内板 ● 史跡標柱
- ▲ 誘導表示板 × 制札板 ● 園名板 ■ 説明板
- ◆ 眺望説明板(視点場)



新規

- ◎ 案内板(史跡入口) ○ 案内板 ● 史跡標柱
- ▲ 誘導表示板 × 制札板 ● 圓名板 ■ 説明板
- ◆ 眺望説明板 ★ 視点場

改修

- ◎ 案内板(史跡入口) ○ 案内板 ● 史跡標柱
- ▲ 誘導表示板 × 制札板 ● 圓名板 ■ 説明板
- ◆ 眺望説明板(視点場)

③バリアフリーで甲府城体感コース サイン整備計画図

*凡例：項番_ゾーン_種別_場所



1. 案内板_内松陰門付近
_舞鶴城公園案内図 (NO, 1)



2. 説明板_公園東側、数寄屋
曲輪付近 (NO, 22)



3. 説明板_稲荷櫓入口付近
(NO, 11)



4. 説明板_鉄門下_鉄門
(NO, 47)



5. 眺望説明板_天守台 (西)
(NO, 27)



6. 誘導表示板_数寄屋曲輪付近
(NO, 34)



7. 園名板・園名柱_公園北側_
舞鶴城公園 (NO, 44)



8. 園名板・園名柱_遊亀橋手
前_舞鶴城公園 (NO, 45)



9. 制札板_遊亀橋手前 (NO, 51)



10. 制札板_遊亀橋手前 (NO, 46)



11. 説明板_史跡外 (堀南)
_舞鶴城公園案内図
(NO, 74)



12. 説明板_史跡外 (堀南)
_やまなしの歴史公園
「武田の柱・甲府城跡」 (NO, 73)



13. 園名板・園名柱_案内板隣_
史跡甲府城跡 (NO, 75)

3. 遺構表現

甲府城は、早く江戸時代に失われた建物に加え、近代以降に破壊された建物として御殿、櫓、門、そして石垣などがある。近世に作成された絵図や近代に撮影された古写真、さらに発掘調査の成果が蓄積されており、それに基づき科学的、客観的な方法により来訪者が現地で往時の甲府城を迫体験出来る手立てとして、遺構整備の検討などを行う。

遺構の整備に当たっては遺構の保存を前提とし、往時の形状や機能、歴史的景観が想起できる整備を行なう。見学者にとって往時の甲府城の姿を迫体験出来るよう、発掘調査や文献資料の調査に基づき、遺構の復元や表面表示を行うが、新事実が明らかになった場合には、やり直しがきく復元に留める。

また、甲府城の史跡指定地外にも、かつての内城域が広がっており、御殿や門が存在した清水曲輪・屋形曲輪・楽屋曲輪・花畑があり、周辺には城下町が広がっている。史跡内の整備を行う際にも、周辺にどのような施設等が展開しているかは重要な視点である。また、発掘調査で新たな発見があれば指定地内と同様に復元整備等の可能性も出てくる。このためにも、史跡指定地外についても今後調査を継続していく必要がある。特に、大手門は城の表玄関にあたる重要な施設であるが、これは、現在の山梨県庁の東口にあたる。

今後は、史跡内外の遺構の顕在化に向けて、関係部署や機関と協議を行なっていく。遺構付近に設置される案内・解説施設とも関連しているため、それらもふまえ、展示や表示の方法を検討する。

以下、特に今後整備する必要がある箇所の遺構表現の方法について示す。

(1) 遺構露出展示（地上遺構）

史跡の本質的価値である、曲輪、石垣など、地上にある遺構をそのまま見てもらう表現方法である。これらは史跡景観を形作る要素となる。本物を直に見てもらうという点では、もっとも効果的な表示となる一方、遺構が露出している状態であることから、外的な影響を受けやすく、き損しやすい。遺構自体が本質的価値そのものであることから、保存・管理を確実に行う必要がある。保存・管理を行ないながら、展示する方法を検討していく。

今後は愛宕山石切場跡も公開に向けた整備が必要となるが、その際には、現状で残されている石切場である安山岩の露頭や矢穴の痕跡等の遺構を露出展示する。



遺構露出展示：石切場跡
(鍛冶曲輪地区)

(2) 遺構表示

発掘調査等により発見された遺構について、規模や形態等に関する情報を、埋設された遺構の直上に模式的に表現する方法である。失われた遺構を、かつて存在した場所で可視化できる点で有効な表示方法であり、地上構造物が伴わないため、場としての空間利用も可能となる。甲府城跡では、稲荷曲輪にある煙硝蔵跡、鍛冶曲輪にある勘定所跡などで平面的な表示を、稲荷曲輪や鍛冶曲輪では井戸跡を立体的に表示している。



遺構表示：煙硝蔵跡
(稲荷曲輪・数寄屋曲輪地区)

また今後、水堀南側の都市公園整備予定地において、史跡景観の復元を念頭に置いた整備が計画されているが、堀跡の範囲や、大手門東側の石垣の範囲等、遺構復元が困難な箇所については、遺構表示にて整備を行うこととする。

(3) 遺構復元

かつての姿が失われた遺構を復元的に表現する方法である。遺構全体を復元するケース、遺構の一部を復元するケース、遺構の構造を復元するケースなどがある。甲府城跡では、石垣、石段、石組水溜などの遺構復元が行われている。復元を行うにあたっては、発掘調査で得られた成果をもとに、文献、絵図、古写真、測量図などの情報を加味した総合的な裏付け作業が必要となる。実施にあたっては、遺構を確実に保護した上で、発掘調査によるデータを最大限生かして、可能な限り往時の工法と材料を使い、本来あった姿を忠実に再現する必要がある。甲府城跡では、これまでも石垣の復元等を行ってきた。

水堀南側の都市公園整備予定地では、現在失われている堀の石垣を復元し、水堀を復元する。史跡を構成する個々の価値が遺構復元によって顕在化され、それらが総体となって可視化された際には、往時の史跡景観を復元することが可能となる。



遺構復元：銅門の北側
(本丸地区)



愛宕山石切場跡の現況
(愛宕山石切場跡地区)

←水堀南側の遺構表現の方法
(埋め立てられた堀地区)



水堀南側 (都市公園整備予定地) の現況

(4) 歴史的建造物の復元等

かつての姿が失われた史跡に関連する建造物を、発掘調査等で確認された遺構の直上に往時の姿で忠実に再現するものである。この取り扱いについては、文化庁で「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」を定めており、その対象となり得る歴史的建造物については、発掘調査等により、その規模、構造、形式等が明らかとなっているもので、関連する指図、絵図、写真等の史資料が存在し、十分に調査研究がなされたものとされている。また、整備の技術的事項としては、原則として、用いる材料・工法は往時のものを踏襲し、史跡等が所在する地方の特性等を反映していることとされる。一方、復元方法については「復元」「復元的整備」の2つが定義されている。両者の基

本的な考え方は同様であるが、後者については、史跡等の本質的価値の理解促進など、利活用の観点から、規模、材料、内部・外部の意匠・構造等の一部を変更して再現することや、学術的調査を尽くしても十分な史資料が揃わない場合には、それら多角的な検証による再現も可能としている。

甲府城跡では、これまでに鉄門・稲荷櫓の2櫓と、内松陰門・稲荷曲輪門・鍛冶曲輪門の3門が復元整備されている。

歴史的建造物の復元等は、史跡の往時を体感するため、建造物が本来存在した位置に実物大の正確な模型を設置するものであり、史跡の本質的価値の理解のために有意義なものである。

今後、歴史的建造物の復元等を行う際には、史跡全体の整備計画の中でそれを位置付けた上で実施することとし、発掘調査の成果や関連史資料の状況や、活用のあり方に鑑み、様々な遺構表現の方法を検討する中で方向性を定めることとする。

第■表 遺構表現の方法と甲府城跡において対象となり得る遺構元

	遺構表現の手法		対象となり得る遺構
1	遺構露出展示	地表遺構をそのまま展示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縄張り関連（地形・曲輪・虎口等） ・ 石垣 ・ 礎石（銅門・天守穴蔵門等） ・ 石切場跡 ・ 石垣地震崩落痕跡
2	遺構表示	遺構の規模・配置・形態・性質等を模式的に表示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 煙硝蔵 ・ 勘定所跡 ・ 井戸
3	遺構復元	現在失われている曲輪・堀・石垣等の遺構を復元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲輪 ・ 堀 ・ 石垣 ・ 石組水溜 ・ 暗渠
4	歴史的建造物の復元	現在失われている建造物を、様々な分野のデータをもとに忠実に再現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄門 ・ 銅門 ・ 稲荷曲輪 ・ 多門櫓 ・ 中の門

			<ul style="list-style-type: none">・内松陰門・坂下門・稻荷曲輪門・煙硝蔵・数寄屋勝手門・庄城稻荷社・鍛冶曲輪門・米蔵・勘定所
--	--	--	---

4. ガイダンス機能

史跡甲府城跡を理解するためには、甲府城が属する時代の歴史や文化について学習するための補完的な機能が必要である。甲府城跡周辺では市街地化が進んだ結果、現在の指定地はかつての甲府城域の 1/3 程度となっており、往時の姿を想像することは難しい。また、史跡等に関する知識を持たない来訪者にも、より深くその価値を理解してもらうためにはガイダンス機能の整備が必要である。一般的には、このような課題に対処するため、史跡の隣接地に「ガイダンス施設」が整備されている。



ガイダンス機能をもつ施設（既存）の位置図

(1) 史跡とともにあるガイダンス機能

甲府城跡において現在、ガイダンス機能をもつ施設としては、既に史跡内に2カ所(鉄門・稲荷櫓)と史跡隣接地に2カ所(甲府城石垣展示室・甲府市歴史公園山手御門)が設置されている。各施設の内容については以下のとおりである。いずれの施設も、その都度設置されたものであることから、解説内容はそれぞれの地点の解説にとどまるなど限定的で、甲府城跡全般を理解するためには必ずしも十分とは言えない。一方で、甲府城に関する概要については各々の形態で展示してあるなど、重複するものも見られる。

このような状況の中で、甲府城跡全般についての理解を促す総合的ガイダンス機能とそれを支える調査研究機能を持ち合わせたガイダンス施設の必要性については、これまでも保存活用計画検討委員会等でも指摘されてきたところであり、今後の整備では、特にこの不足する「総合的ガイダンス機能」を付加させていく必要がある。

甲府城跡を見学する来訪者にその価値を伝え、興味を持ってもらうためには、まずは既存施設のガイダンス機能を最大限に活かす必要がある。各施設の展示内容をトータルコーディネートするため、統一的なコンセプトに基づいた展示計画を作成するが、展示に必要な内容は、上述した総合的ガイダンス機能に加え、曲輪等の城郭構造や石垣等の遺構についてなどテーマごとの情報である。史跡とその周辺に既存施設が点在するという特性を活かした「史跡をまるごとガイダンスに」というコンセプトのもと、来訪者が史跡内を巡り、必要な情報を楽しみながらスムーズに得られるような仕掛け作りを行う。一例としては、総合ガイダンス機能を展示スペースが広い稲荷櫓に、または大手門跡からの見学動線に合わせて甲府城石垣展示室に持たせることなどが考えられる。このほか鉄門では曲輪内の施設(門や櫓など)に関する展示を行うなど、それぞれの内容に特色を持たせることで、より効果的な情報提供が可能となる。

この検討を行うにあたっては、まずは来訪者や見学者の利用実態やニーズなどを把握する必要があるため、利用に関する調査を実施した上で、既存施設の各役割について設定する。また、上記4施設以外の既存の施設の一部などに解説コーナーを設けるなど、情報発信の間口を広げる方法についても、関係者と十分な協議を行った上で、今後検討していく。

No.	ゾーン	名 称	場 所	内 容
1	A-①	鉄門	本丸南側	<ul style="list-style-type: none">・甲府城跡の概要・鉄門の構造に関する説明・鉄門復元工事の解説・コラム展示(城内の見どころ案内)・石垣についての説明等 (期間限定、内容を随時入れ替え)



鉄門内展示 入口付近



鉄門内展示

No.	ゾーン	名称	場所	内容
2	A-③	稲荷櫓	稲荷曲輪	<p>〈下層〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲府城の概要 ・甲府城跡や甲府城下町遺跡の出土品の展示 ・甲府城跡の各地点における発掘調査情報 ・鯨瓦の解説と複製品の展示 <p>〈櫓部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡のジオラマ展示 ・甲府城と甲府城下町の散策コース案内



稲荷櫓内展示



パネル展示



甲府城跡ジオラマ展示



石工具説明展示

No.	ゾーン	名 称	場 所	内 容
3	D-①	甲府城石垣 展示室	山梨県防災新館 地下1階（県庁 施設）	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県防災新館建設工事に伴う発掘調査で発見された甲府城楽屋曲輪南西部に位置する内堀の石垣を移築展示。 ・甲府城の概要 ・石垣の概要説明 ・解説動画の上映（甲府城の歴史、移設展示の際の動画等）



石垣展示室



石垣展示

項番	ゾーン	名 称	場 所	内 容
4	D-①	甲府市歴史 公園山手御 門	甲府市歴史公園	<ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡の概要 ・甲府城の縄張りについての解説 ・山手渡櫓門の構造解説や骨組みミニチュアの展示 ・甲府城下町遺跡の出土品の展示 ・鯨瓦の解説と複製品の展示 ・甲府城跡に関する新聞記事などの掲示



山手御門内展示



展示解説

(2) 城と城下町の中のガイドンス機能

上述のような、「史跡をまるごとガイドンスに」というコンセプトのもとに主に史跡内の整備を行う一方で、史跡とその周辺地域の関係性をより充実したものにするため、来訪者がまちなかを散策しながら、自然な形で、史跡の存在や価値を身近に感じてもらうきっかけを積極的に提供する方策も必要である。これを実現するためには、例えば周辺のレストランやカフェなどの店内にミニ展示を設置したり、甲府城関連メニューを提供したり、小冊子を置くなどの方法があるが、これには関係機関や民間団体等と協働していく必要がある。かつては甲府城下町であった周辺市街地を含めた「城と城下まちなか博物館」のように、「このまちにいます、すぐ隣には城や城下町がある」というような、まち全体の諸活動の中で甲府城跡を知るというコンセプトを持つことによって、史跡を活用しながら周辺地域を活性化させることも可能となる。

一方で、甲府駅から史跡への人流をスムーズにするためには、駅周辺でのガイドンス機能も必要となる。甲府駅は山梨県の玄関口のひとつであり、実は清水曲輪に位置しているが、駅には甲府城に関する情報を伝える説明板などがなく、駅構内から出てまず目にする景観はビル街であり、駅から200mという至近距離に史跡甲府城跡（舞鶴公園）があることにも気付けない状況となっている。駅は毎日多くの人々が利用することから、史跡に興味がない人たちにも、史跡の価値に接してもらえる可能性のある場所であるため、城の中にある甲府駅周辺にガイドンス機能を持たせることは効果的である。

駅に史跡のガイドンス的機能を持たせた一例としては以下のものがあるが、いずれも、鉄道利用者をはじめ多くの来訪者に駅周辺の歴史に興味を持ってもらう工夫がなされている。

1) 四ツ谷駅（JR 東日本）

- ・「江戸城外堀史跡展示広場」を整備し、パネル展示を行う
- ・広場開設に合わせ、中央線など車内のトレインチャンネルで「史跡および史跡広場」の紹介ムービーを配信
- ・麴町口出口周辺に「四谷門枳形石垣と使われた石材」についての解説板を設置



江戸城外堀史跡展示広場パネル



解説版

2) 飯田橋駅 (JR 東日本)

- ・ 駅舎内から「牛込見附跡」「江戸城外堀跡」をのぞむ「史跡眺望テラス」を整備
- ・ 「史跡眺望テラス」や駅前に史跡紹介解説版を設置



江戸城外堀史跡展示広場パネル



史跡眺望テラス



テラスからの眺め



史跡紹介解説版

(3) 史跡のよりよい理解に向けて

以上、史跡内と史跡外のガイダンス機能について述べたが、甲府城跡全般についての理解を促すために整備する総合的ガイダンス機能はどんな内容であるべきか、利用者のニーズ等に関する各種調査を行い、県庁内の関係部署や関係機関と調整を行った上で、まずは史跡内外にある4つの既存施設について、統一的なコンセプトに基づいた展示計画を作成し、史跡と一体となったガイダンス機能の整備を行うこととする。

一方、本来の城域や城下町とともに甲府城を知り、身近に感じられるよう「このまちにいとすぐ隣には城や城下町がある」という状況を作り出すためには、周辺地域にも様々な形のガイダンス機能を構築するなどの計画が必要となる。これには甲府市と協働し、民間団体等の理解と協力を得ながら進めていくことが不可欠となる。

なお、史跡の情報を常に更新していくためには調査研究機能が必要不可欠であり、さらに史跡のよりよい理解のためには体験の場も必要である。総合的ガイダンス機能の理想形は、ガイダンス機能・調査研究機能・体験の場の一体的な構築であることから、既存施設の整備完了後には、よりよいガイダンスのあり方についての検討も必要である。

5. 便益施設及び管理施設

(1) 新設について

今後、水堀南側の都市公園整備予定地において史跡景観の復元を念頭に置いた整備が計画されているが、整備にあたっては、来訪者がくつろげるスペースとしてベンチや外灯、管理施設等の設置の検討がまず必要となる。同じく整備が予定されている愛宕山石切場跡については、現在、一般公開されていないため、ここを安全に公開し来訪者が快適に見学するために必要な諸施設について検討を加えた上で整備を行う。

なお、整備予定地である水堀南側の芝生広場では、将来的な活用のあり方を検討するため、令和元年度から社会実験が行われているが、これら成果も踏まえながら施設整備の検討を進めていくこととする。

(2) 既設について

既設の諸施設については、日常的な点検や維持管理による現状維持を基本とするが、中には老朽化が見られる施設もあり、必要に応じて計画的に改修する必要がある。一方で、特に設置が史跡全体に及び設置箇所も多い、転落防止柵や園路舗装等については、史跡景観上の影響が大きいいため、今後はその形態や色調等についての検討を重ねた上で、順次変更等をしていく。

新設・既設ともに、内城エリアについては、都市公園の範囲とも重なっていることから、公園機能として必要な施設整備については、諸計画との整合を図る中で検討することとする。



都市公園整備予定地

『甲府城周辺地域活性化実施計画』（H29年度）から抜粋

6. 修景・植栽

史跡周辺は市街地化が進み、往時の景観は失われている。今後は、史跡の本質的価値を顕在化させ、史跡景観の復元を目指すとともに、遺構と水や緑とを調和させた快適な空間を創出することが求められる。これを実現するための基本的な考え方を以下に示す。

- 城郭の全体像について、来訪者がイメージできるような修景・植栽を行う。
- 遺構や史跡景観の保護の観点から支障となる樹木については、伐採や剪定を行い適切に管理する。
- 甲府城跡の歴史性の再現を目指す植栽を行うとともに、新しく整備を行う箇所については、史跡景観との調和をはかり公園環境に必要な植栽を行う。
- 史跡の本質的価値を顕在化させることにより史跡景観を体感できる公園空間を創出し、来訪者がその景観の魅力を体感できる憩いの場とする。

(1) 修景

1) 水堀南側

お城の顔である大手門周辺の堀と石垣の復元により史跡景観を取り戻し、市街地からの新たな眺望の形成と水辺を整備する。この場所は、水堀と階層的な曲輪及び石垣を視覚的に体感できる、視点場のひとつであることから、修景によりその価値をさらに顕在化させることができる。



水堀南側から北を望む、現在の景観



水堀から北を望む、現在の景観

(2) 植栽

現在の植生の状況を踏まえ、史跡景観の保全と創出、公園に必要な環境を確保するため、植栽に関する考え方を以下のように整理する。

1) 史跡景観の復元を目指した修景及び植栽計画

文献や絵図等の資料調査により、甲府城内に江戸時代にあった樹種について把握し、可能

な範囲で既存樹種との調和を図り修景を行う。

〈甲府城とその周辺で江戸時代に見られる樹種の例〉

（『(甲府) 城下絵図』（京都大学大学院工学研究科建築学専攻所蔵）より）

- 芦 …大手門近くの堀内
- 桑 …内堀沿いの土居、大手御役宅の裏土手、大手門付近の空き地など
- 楮 …三の堀沿いの土居、二の堀沿い、百石町・田町周辺の小土手など

この他、土塁の上には、櫨、杉、松、榎など。

ほかにも、蓮、竹藪、桐などの樹種が絵図に記されている。

2) 舞鶴城公園としての環境整備

公園の機能や土地利用を踏まえ、既存樹木の適切な管理を行う。ただし、遺構に影響を与えるものや、史跡景観上支障となっているものについては、公園機能との調和を図る中で、適宜剪定、伐採等を行う。なお、新たに整備する場所については、史跡景観との調和をはかりながら植樹する樹種や位置について検討する。



帯曲輪西側石垣の支障木

7. 防災・防犯対策

(1) 遺構の保存

甲府城跡は、独立丘陵である一条小山を主体としており、もとの地山を造成し曲輪等を造り出している。この造成地形を維持するためには、雨水排水のコントロールが重要となることは「保存整備に関する計画」で述べたとおりである。

この造成地形を確実に保存していくためには、日常的な観察及び維持管理を行い、なるべく早い段階で危険を察知することや、自然災害等に対する予防策を立てる必要がある。地盤調査等により地質等の状況を把握するとともに過去の災害等で崩落があった箇所を特定し、計画的に対策を講じる。

(2) 復元建造物の防火対策

甲府城跡では、これまでに稲荷櫓・鉄門の2櫓と、内松陰門・稲荷曲輪門・鍛冶曲輪門の3門が復元整備されている。歴史的建造物の復元等は、史跡の往時を体感するため、建造物が本来存在した位置に実物大の正確な模型を設置するものであり、史跡の本質的価値の理解のために有意義なものである。

これら復元建造物のうち、稲荷櫓と鉄門については現在、火災、盗難及び不良行為等を防止するための機械警備を行っている。しかしながら、消火設備については未整備であることから、今後、必要な施設や箇所等について整理した上で整備について検討する。

(3) 来訪者の安全確保

遺構の保存と同時に来訪者が安全に見学できるよう万全を期す必要がある。変状が生じている石垣の周辺には、立ち入り禁止の措置をとる。また、現在実施している石垣の点検調査と変状評価の中で必要に応じて、築石の補修や間詰め石の叩き締め等を行っているが、引き続き、日常的な見回りとともに石垣の維持管理を行っていく。

(4) 防犯対策

史跡甲府城跡の範囲である舞鶴城公園は、都市公園として昼夜通して開放されているが、夜間については管理事務所に人が常駐していない。このため、史跡内が常に安全な状態に維持されている必要がある。また、石垣等への落書きによるき損も発生していることから、危険箇所の巡視を継続して行うとともに、夜間の巡視や必要な設備整備等について関係部署と協議を進め防犯計画の作成を目指す。

8. 周辺整備

甲府城の整備に当たっては、史跡の周辺地域も含めた各種計画との整合性をとっていくことが求められる。周辺の先行計画としては、「甲府城周辺地域活性化基本計画」及び「甲府城周辺地域活性化実施計画」がある。今後は、これら計画に基づき、山梨県と甲府市が主体となって整備を進めていくことになっている。

ここでは、これら先行計画に基づく周辺整備計画と、甲府城の内城の遺構が埋設保存されている、山梨県庁構内における整備計画について記述する。

(1) 先行計画に基づく周辺整備計画

1) 甲府城周辺地域活性化基本計画

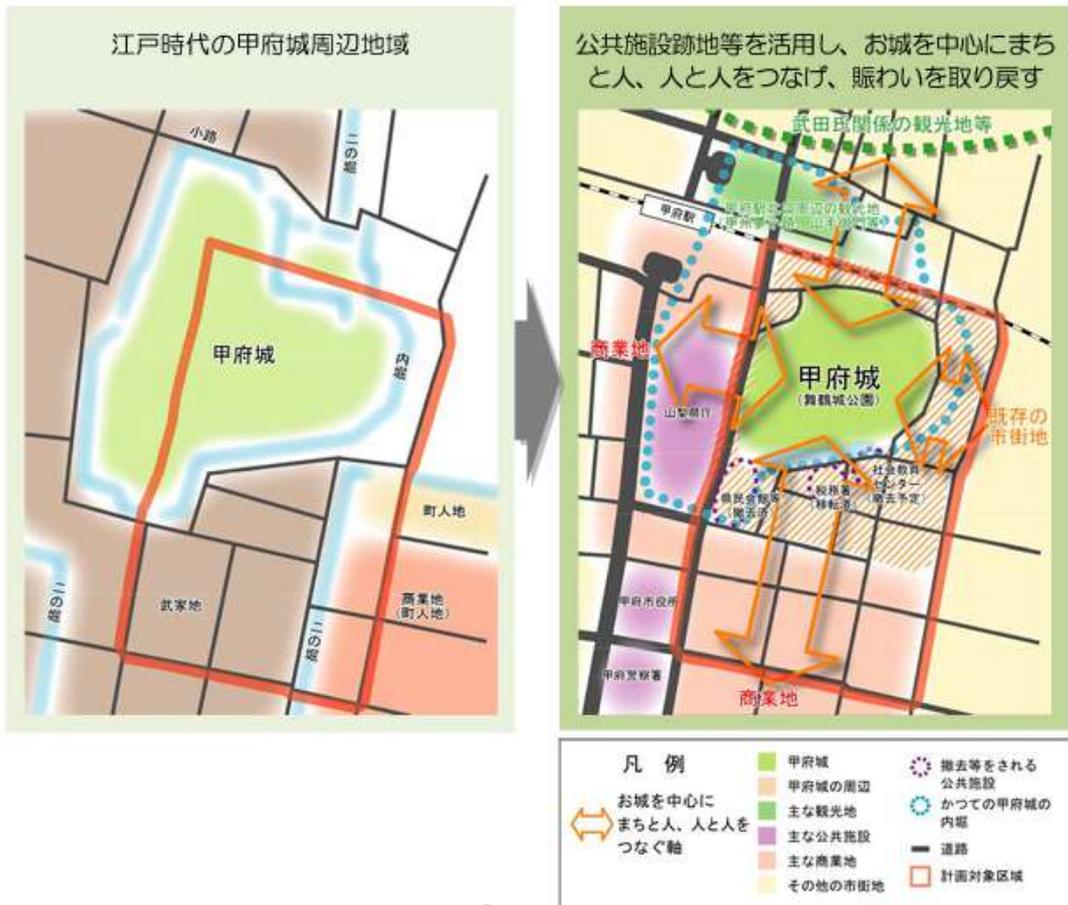
「甲府駅南口周辺地域修景計画」を上位計画として、平成28年に山梨県・甲府市により「甲府城周辺地域活性化基本計画」が策定された。基本計画の中では、以下のように目的が示されている。「本計画は、修景計画の対象区域のうち甲府城周辺の3つのゾーン（歴史と文化へのアプローチゾーン、賑わいの商業ゾーン、歴史・文化の香る住居・業務複合ゾーン）を対象に、「甲府市中心市街地活性化基本計画」なども踏まえ、修景計画で位置づけられた取り組みを具体化するためのものである。特に甲府城周辺地域内にある公共施設（県民会館、甲府税務署、甲府市社会教育センター）跡地等を活用して、地域の魅力を向上させ、来訪者を増やし、中心市街地の賑わいの創出につなげることを目指している。」基本計画におけるゾーン区分は図のようになっており、その範囲は史跡甲府城及びその南側に広がるエリアとなっている。

計画では、「お城がつなぐまち 甲府城周辺地域」をコンセプトとして、「お城がまちのシンボルとなり、お城を中心にまちと人、人と人がつながり、様々な交流を通じて賑わいを取り戻し、新たな文化を創造するまちを目指すこと」を念頭に、甲府城の保全活用や甲府城周辺の回遊ネットワークの充実、甲府城周辺の賑わい創出など地域の活性化を目標及び方針として設定している。

■ 甲府駅南口周辺地域修景計画と計画対象区域との関係



■ 甲府城周辺地域が目指すまちづくりのイメージ



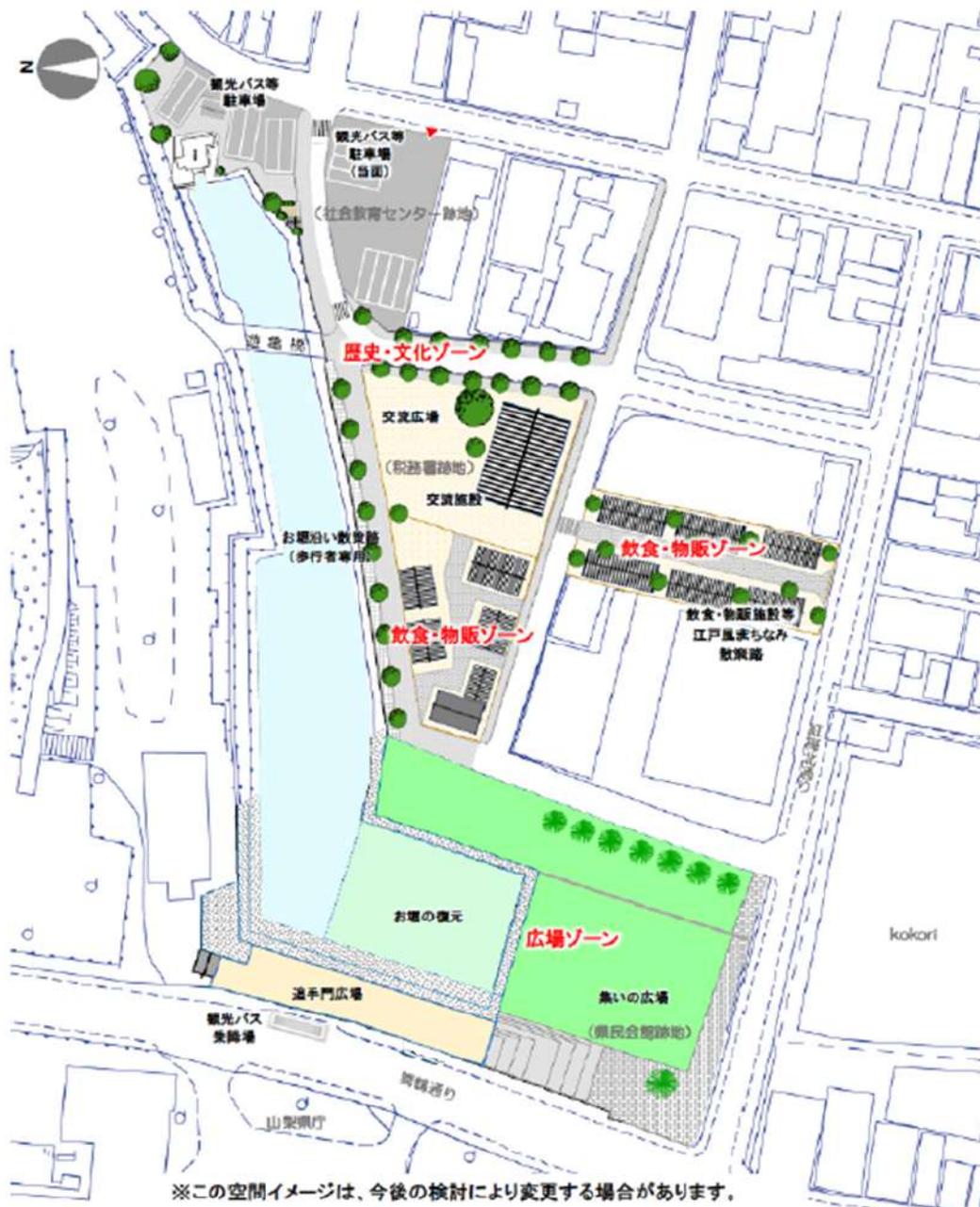
■ 甲府城南側エリアの骨格構成



2) 甲府城周辺地域活性化実施計画

基本計画を受けて平成29年には「甲府城周辺地域活性化実施計画」が策定された。実施計画では、基本計画のコンセプトや考え方に基づいた、具体的な整備内容や事業主体等の基本的事項が示された。基本計画では甲府駅南口から広がる範囲が示されたが、この実施計画ではさらに焦点が絞られ、史跡甲府城の南側に広がる公共施設跡地を中心とした、エリア整備の考え方が示された。

エリア全体としては、「甲府城と調和した緑豊かな空間及び江戸風まちなみの整備」「甲府城周辺の歴史・文化資源の活用」「自家用車駐車場の利便性の向上」の3点が考え方の軸となっている。このエリアをさらに「広場ゾーン」「歴史・文化ゾーン」「飲食・物販ゾーン」に分け、空間イメージが検討された。



甲府城跡周辺施設と文化財



第●図 甲府城周辺施設と文化財

(2) 山梨県庁構内における整備計画

甲府城の中核部である内城の範囲は、現在史跡指定されている部分以外にも広範囲に広がっているが、道路や線路によって分断され市街地化が進んでいるため、往時の姿が失われており、城郭の範囲がわかりにくいことが課題となっている。

山梨県庁構内も例外ではなく、ここは内城のうち主要な曲輪である楽屋曲輪にあたるが、これまでの発掘調査で多くの遺構が確認されている。このうち、重要な遺構については、展示などがなされてきた経緯がある。例えば、山梨県防災新館建設に伴う発掘調査では、楽屋曲輪南側の内堀の石垣が良好な状態で遺存することが確認されたことから、防災新館の地下1階に甲府城石垣展示室を設け、一部を移築保存して展示している。また、山梨県議会議事堂委員会室棟建設に伴う発掘調査では、絵図に記載されている温泉に関連すると考えられる石敷遺構が確認されており、遺構は埋設保存されたが、近くに説明板が設置されている。

このほかにも、大手門の礎石や柳門周辺の石垣、楽屋曲輪書院・長屋の礎石や石列、石組み水路のほか、番所の礎石、石列などが確認されているが、これらは現在、埋設保存されている。

往時の姿を復元するためには、まずは城郭に関する遺構を顕在化させることが必要となる。今後、史跡指定地内では、お城の顔である大手門周辺の堀と石垣の復元により史跡景観を取り戻し、市街地からの新たな眺望の形成と水辺を整備することを計画しているが、ここで重要となるのは大手門の存在である。大手門は現在の山梨県庁東口の場所にあたり、礎石が地下に埋設保存されている。これを顕在化させることによって、お城の顔である場所を明

示することができるため、史跡景観を復元する上では効果的である。大手門の遺構表現方法としては、理想的には現地に歴史的建造物の復元を行うことであるが、現在県庁への出入口としての利用もあることから、まずは、平面的な遺構表示について検討する。上述した、このほかの遺構についても、遺構表示をすることで、城域を明示することが可能になることから、関係部署との協議・調整を行いながら、山梨県庁構内の遺構表現についての検討を進めていく。

第4節 調査研究に関する計画

甲府城跡では、これまでも調査・研究が行われてきたが、今後も既調査成果の検討を含めた調査研究を計画的・継続的に実施することとする。引き続き、甲府城跡に関する様々なデータを蓄積して保存整備を行い、遺構を確実に保存するとともに、それらデータから、築城にあたっての城と城下町の形成過程などストーリーの構築を目指す。また、近代以降の城の改変の状況などを把握し、それら成果を整備に活かすことで、史跡の価値をよりわかりやすく顕在化させていくこととする。

1. 試掘調査

甲府城跡の本質的価値を明らかにし、遺構を確実に保存し活用していくための試掘調査については、今後、調査計画を立てた上で継続的に実施することとする。

また、活用整備を進めるにあたり必要な調査は以下のとおりである。

(1) 水堀南側延長部

内堀の復元整備を実施するにあたり、現在埋め立てられている箇所を調査を行う。特に内堀の西側及び東側の石垣については、地下に遺存する部分の調査を行うことによって、石垣の構造や石積み強度など石垣復元整備に必要なデータを得る。

また、調査の実施と並行して史跡の追加指定を目指し、遺構の保護を確実に行った上で、その本質的価値を顕在化する整備を行い、多くの来訪者に、史跡本来の姿を知ってもらうよう努める。

(2) 愛宕山石切場跡

愛宕山石切場跡については、史跡の内容が十分明らかになっていないため、令和3年度から3ヵ年計画で総合調査を実施している。特に、愛宕山石切場が甲府城に石材を供給していた時期や愛宕山石切場内の場の使われ方を解明するための調査を実施し、石切場の往時の姿を復元するために必要なデータを収集する。

また愛宕山石切場跡のみならず、甲府城内の石切場跡との関連性や、愛宕山やそれ以外の石切場跡についての調査を併せて行い、甲府城への石材供給システムを明らかにしていく。

2. 地盤調査

内堀の復元整備を実施するにあたり、復元する石垣を安全な構造物とするために、周辺の地盤調査を行う。また、本丸北面石垣や天守曲輪南面石垣、鍛冶曲輪南面石垣の一部は、歴史的に見ても石垣の崩落が起り易い箇所であるため近年多発する集中豪雨等に備え、崩落の仕組みを解明するため、ボーリング調査等の地盤調査を実施し、全体の地質を把握することに努める。

3. 石垣カルテの作成

石垣という史跡の本質的価値を確実に保存していくため、平成27年度(2015)から実施している、石垣の長期にわたる構造物の安定と状態の保存を目的とした点検及び調査を引き続き、計画的・継続的に実施し、石垣カルテの更新等データの蓄積を行い、基礎資料を作成する。また、オリジナル石垣の中には現況図がないものがあるため、これらについては3次元測量を行い、現状把握を確実にすることとする。

4. 資史料調査

甲府城跡の野面積み石垣は、どのような職人によって構築されたのか、各種建物に葺かれた瓦はどこで生産されたのか等、試掘調査などの現地調査だけでは明らかにできないことも多い。また、愛宕山石切場跡についても、史料調査が十分ではないことから、古文書や日記、絵図などの資史料調査を進め、新たな知見を得ることによって、充実した活用整備につなげることとする。

5. 景観調査

階層的な曲輪と野面積み石垣を特徴とする甲府城跡の城郭らしさ（地形・堀・曲輪・石垣）を総体としてとらえるうえでは、史跡景観のビューポイントを特定し、整備に生かしていくことが必要である。特に、山手御門や愛宕神社などのように、史跡から少し離れた場所にも歴史的な眺望ポイントが存在することから、今後は、史跡外にも範囲を広げて景観調査を実施する。



調査・研究が必要な箇所と内容

6. 史跡活用のための調査・研究

各種調査成果を活かして整備を進めると同時に、史跡をよりよく活用するための調査を行う。具体的には、入場者数や利用形態の把握、これまで実施してきたイベント内容の分析が必要である。また、今後、ガイダンス機能を整備していくにあたっては、何が求められているのか等利用者のニーズを把握する必要があるため、これらの調査を実施する。

第5節 公開・活用に関する計画

調査研究成果を基軸として、史跡の本質的価値や特徴を活かした整備を行い、人々が集い、ふれあい、豊かな時間を過ごすことができる場所と多様な機会を創出する。現地で歴史を体感できる発掘調査現場の公開や現地説明会を積極的にを行い、甲府城跡の歴史を身近に感じてもらうと同時に、整備事業に関する現地説明会等を行い、史跡整備の考え方や手法についての理解を促す場を提供する。調査研究等により蓄積された情報については、様々な媒体や手法により適宜公開し、人々の関心を高めると同時に、県民と共に協働する活用を目指す。

1. 史跡甲府城跡の活用と都市公園としての利活用

- これまで実施してきたシンポジウムや各種イベント等の内容を精査する中で、来訪者のニーズを捉え、定期的・継続的なイベントとしての定着を図る。
- 甲府城跡を、城らしい情緒を味わうことのできる場として積極的に活用するため、ユニークベニューとして人々が集いにぎわいの創出につながるイベントを開催する。これを人々が集う都市公園としての利活用にもつなげる。
具体的には、下記のような活用が考えられる。
(例) 高石垣を利用したプロジェクションマッピング、各種演奏会・講演、お茶会、甲府城マルシェ、パブリックビューイング等
- 甲府城跡の価値やイメージをロゴやシンボルマーク、イメージカラーなどにより可視化し、一目で「これは甲府城だ」とわかるようなV I (Visuai Idenntity) を確立する。甲府城跡がもつ価値をビジュアル的に表現し、ホームページや案内パンフレットなどのほか、観光面においても積極的に展開させることにより、その存在意義を社会的に浸透させることが可能となる。

2. 情報の発信・案内

- 甲府城跡に関する情報を集約したホームページを立ち上げるなどして、調査研究、整備、イベント等に関する情報提供を行う。
- 観光に関連する民間組織等との連携によるPRを行う。
- 城と城下町一帯のまち歩き、散策等を支援するパンフレット等を適宜更新改訂するとともに、携帯情報端末等のセルフガイドツールの導入等についても検討する。特に甲府城駅から甲府城跡へのアクセスを強化するための取り組みを行う。

3. 発掘調査・整備等の公開

- これまでも実施してきた発掘調査の現地説明会等を引き続き開催し、発見された遺構や出土品について、来訪者が現地で直接見て歴史を体感できる機会を積極的に提供する。また、可能な限り平常時の発掘調査の状況の現地公開も行う。
- 遺構の修復や整備については、現地説明会等を開催し、整備過程を公開する。

4. 周辺の文化資源との連携による観光利用

- 甲府城跡の周辺に位置する城下町エリアを回遊しながら歴史を学び体感できるような地域総体としての観光利用の活性化をはかる。
- 甲府城跡の北方には史跡武田氏館跡とその城下町が広がり、中世から近世にかけての2つの連続する歴史的な拠点が存在する特徴的な立地であることから、関係機関との相互連携を進める中で、これを活かす取組みを展開する。
- 県内外に所在する史跡等と関連性を持たせた活用を目指す。関連自治体と連携し、調査研究や保存管理、整備における技術的な情報共有を行い、連携イベントやシンポジウム等を企画・開催するなど、相互に城跡のPRを行うことにより観光面をはじめとした相乗効果をはかる。

第6節 管理・運営に関する計画

史跡の維持管理においては、来訪者の安心安全で快適な利用を第一とし、史跡指定地としての特性を勘案して、史跡の本質的価値を確実に保護することが必要である。また、史跡甲府城跡のうち城郭部分については、舞鶴城公園（都市公園）の範囲とほぼ重なることから、都市公園としての機能をも発揮するため、樹木、各種施設等の日常的な機能確保に努め、適正な維持管理を行うことが必要となる。

（1）日常的な維持管理、保存、公開に関する運営・体制の整備

- 現在の体制を当面維持するとともに、迅速な対応等への体制を整える。
- 甲府城跡の保存・活用、整備は、まちづくりや観光、環境や防災等と関連するため、関係部局間の連携を強化し、十分な検討・調整を図ることができる体制を整える。
- 甲府城跡の専門的かつ継続的な調査研究、さらに緊急的な発掘調査にも確実に対応できる組織づくり及び人材確保等についての検討を行う。
- 保存・活用、整備についての方向性や手法等を検討し推進していくため、専門家や有識者等による『史跡甲府城跡保存活用検討委員会』を継続設置する。

（2）整備事業に関する運営体制の整備

- 適切な推進体制を確立する。
- 石垣修理等は、長期的な展望のもとに継続的に取り組む必要があることから、関係部局間の情報共有を行い、連携を強化する。

（3）官民一体となって協働する体制整備

- 県民に親しまれる城として、史跡の保護・活用等に関して、県民が積極的に参加できる体制づくりを行う。
- 様々な方法や媒体を駆使した情報発信を効果的、継続的に行うため、県民や地元自治会、NPO団体、観光団体等の関係者と連携・協働する体制づくりを行う。

（4）新しい運営体制のあり方についての検討

史跡甲府城跡では、都市公園としての場を最大限に活かして史跡を利活用する視点も重要となる。大阪城公園（大阪城跡）や大濠公園（福岡城跡）など幾つかの史跡公園では、Park-PFI（公募設置管理制度）を活用することにより、都市公園の質の向上に向けた様々な試みが行われている。都市公園空間の運営を民間に開放することにより、観光拠点にふさわしいサービスの提供や新たな魅力の創出をはかることが可能となり、まちづくりや地域連携によるにぎわい創出や回遊性向上につながることを期待される。甲府城跡でも、将来的な活用のあり方を検討するため、令和元年度から社会実験が行われているが、これら成果を踏まえながら、今後の運営体制のあり方について検討していく。

目指すべき運営体制のイメージ

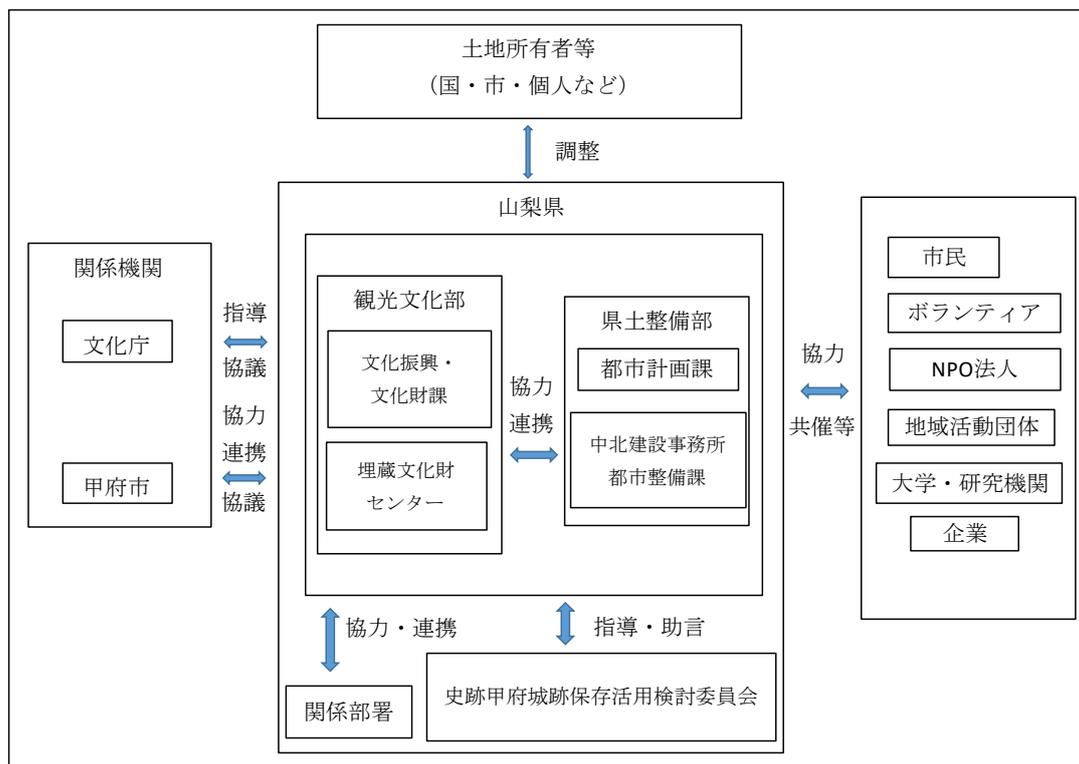


表 関係・関連機関一覧

機関	所属	主な役割	
山梨県	観光文化部	文化振興・文化財課	史跡に関すること
		埋蔵文化財センター	史跡の保存活用及び調査に関すること
		観光振興課	観光に関すること
	県土整備部	都市計画課	都市公園に関すること
		中北建設事務所 都市整備課	舞鶴城公園(都市公園)の維持・管理に関すること
	総務部	庁舎管理室	本庁舎の維持管理に関すること
	産業労働部	産業政策課	中心市街地の活性化に関すること
林政部	林政総務課	城内の恩賜林関係施設等に関すること	
関係機関	文化庁	史跡の保存活用に係る指導・助言	
	甲府市	歴史文化財課	甲府市域の文化財に関すること
		都市計画課	甲府市域の都市計画・景観計画に関すること
		観光課	甲府市域の観光計画・観光振興に関すること
指導助言組織	甲府城跡保存活用検討委員会	甲府城跡の保存・整備・活用に係る検討に関する指導及び助言	